

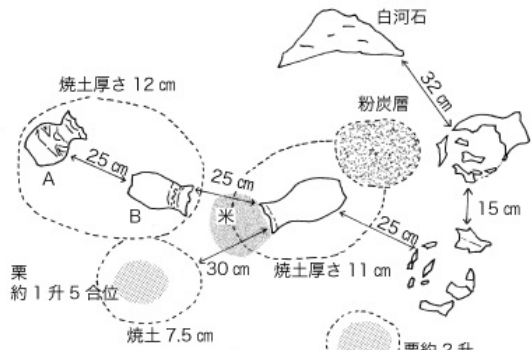


遺跡の調査

▷第1～2次発掘調査 白河農業高等学校（現在の実業高等学校）の教諭であった藤田定市氏によって行われました。

昭和25年に2度の調査が行われ、炉（煮炊きの場所）や数個の土器がー列に並んだ状態で発見されました。また、倒れた土器からコメがこぼれているような状況も確認されました。多くの弥生土器のほか、矢じりなどの石器、炭化したコメやグリ、クルミなども出土しました。

発掘調査の結果は、昭和26年にガリ版刷りの報告書として刊行され、多くの研究者に注目されました。



倒れた土器からこぼれたコメの出土状況 (S25)



▷第3～5次調査 市では、天王山遺跡の内容を明らかにするとともに、国史跡指定を目指し、平成28年から調査を開始しました。その結果、丘陵頂上部に竪穴住居跡などが広く分布していることを確認し、遺跡は人々が生活を営んだ集落跡であることが分かりました。

また、今回の調査では炭化したコメ・グリのほか、新たにアワ・キビなども確認され、弥生時代の人々の食生活を考えるうえで重要な発見となりました。

▷今後に向けて 天王山遺跡は、東北地方における弥生時代後期の生活を考えるうえで重要な遺跡として、国史跡に指定されることになりました。

今後は、国史跡として保存を図り、活用していきます。

国史跡指定へ てんのうやま 天王山遺跡を紹介します！

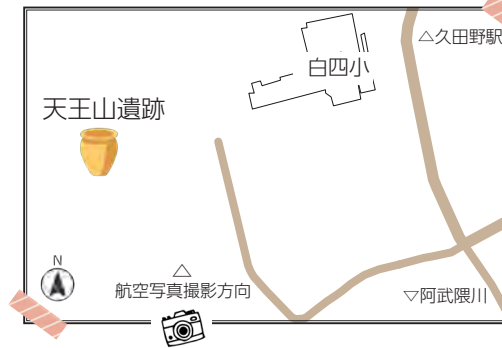
市では、市内に存在する重要遺跡の国史跡指定のため、計画的に発掘調査を行っています。

今回、天王山遺跡が国史跡に指定されることになりました。そこで今月号では、天王山遺跡の実像を紹介します。
文化財課 ☎2310



久田野地区の白四小西側にある、豆柄山の山頂に位置しています。

▷豆柄山 標高 407m 平地との標高差 約80m



遺跡の位置



遺跡の概要

▷遺跡の発見 昭和25年、天王山で開墾作業が行われました。その際に、大量の弥生土器が発見されたことで、存在が明らかになりました。

▷名前の由来 遺跡のある丘陵が、地元で通称「天王山」と呼ばれていたことから名付けられました。

▷出土品 つばやかめ、脚のついた器など、さまざまな種類の弥生土器が多数出土しています。昭和25年当時、それまでにない特徴を持った土器であったことから「天王山式土器」と名付けられ、弥生時代後期の東北地方を代表する土器のひとつとなっています。

▷年代 弥生時代後期（今から約2,000年前）が中心です。

